

## 《報告事項》

(1) 令和4年度 診療状況について 【資料1】

(2) 令和4年度 決算見込等について

① 令和4年度 決算見込について 【資料2】

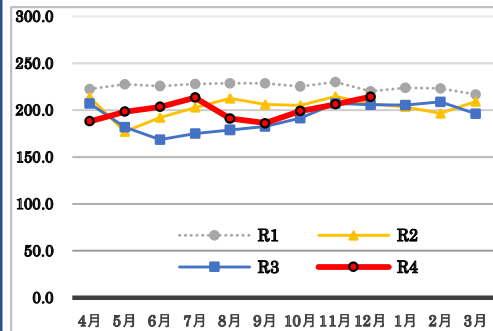
② 類似病院との比較 【資料3】

③ 将来の負担について 【資料4】

## 入院

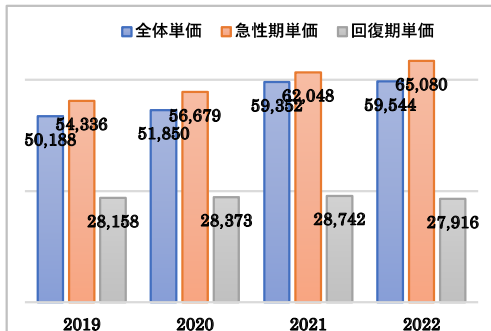
### 入院患者数

- 南奈良HC・五條病院（7床増）では、昨年度を上回る状況が続いている



### 診療単価

- 南奈良HCでは、コロナ対応で高い水準が続いている

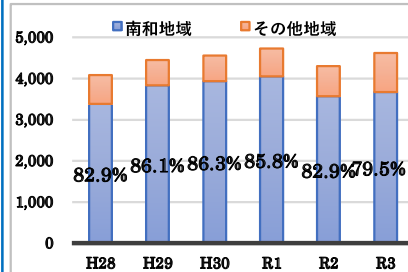


## 参考

南奈良総合医療センター, 77.2%

### 地域別患者数の状況

- 患者のうち85～95%は南和地域の住民



### 南和地域市町村別患者数

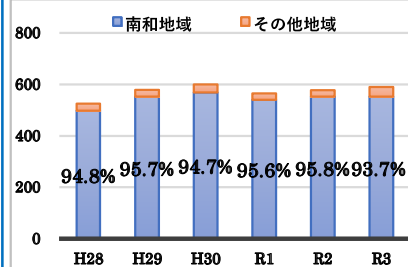
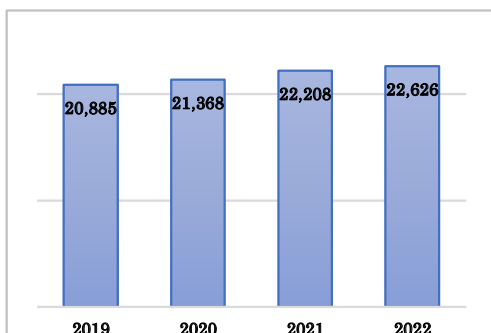
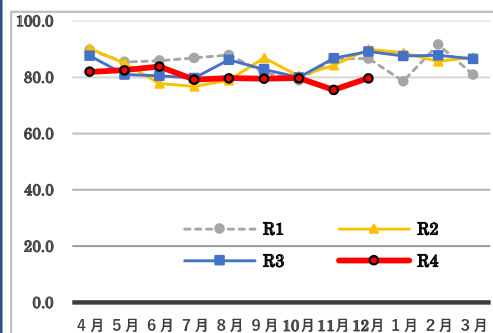
- 南奈良HCでは、約85%（6年平均）
- 吉野病院では、約95%（同上）
- 五條病院では、約92%（5年平均）※ 実患者数

(入院)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	H28→R3
五條市	1,476	1,640	1,675	1,712	1,536	1,598	
吉野町	380	458	465	477	423	386	
大淀町	839	949	947	999	889	941	
下市町	339	319	352	360	312	329	
黒滝村	46	56	45	50	40	35	
天川村	61	85	93	82	72	80	
野迫川村	7	24	20	29	15	26	
十津川村	106	140	144	163	135	135	
下北山村	10	15	30	35	26	24	
上北山村	21	24	36	34	30	30	
川上村	79	98	96	91	68	63	
東吉野村	15	23	31	22	19	23	

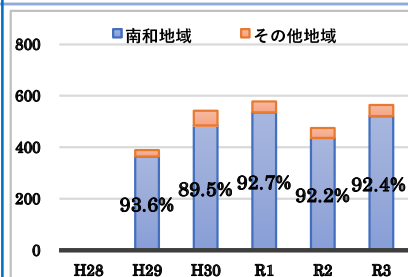
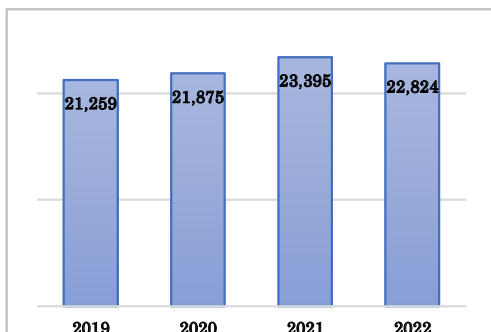
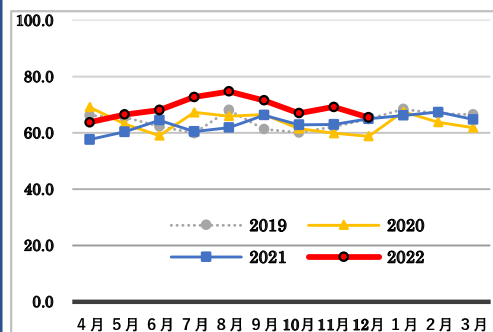
南奈良総合医療センター

吉野病院

五條病院



(入院)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	H28→R3
五條市	90	42	17	19	30	35	
吉野町	194	249	247	212	215	193	
大淀町	101	132	132	157	155	173	
下市町	49	59	84	74	77	70	
黒滝村	4	3	2	7	7	12	
天川村	8	12	16	13	18	17	
野迫川村	2	0	1	0	0	1	
十津川村	7	8	1	3	9	3	
下北山村	2	2	4	5	4	4	
上北山村	6	8	9	11	5	6	
川上村	27	31	47	34	28	32	
東吉野村	7	6	8	5	4	6	



(入院)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	H28→R3
五條市	0	285	396	428	343	421	
吉野町	0	2	4	3	5	5	
大淀町	0	24	31	37	33	31	
下市町	0	9	10	15	9	8	
黒滝村	0	2	4	4	1	0	
天川村	0	7	4	7	2	0	
野迫川村	0	5	5	8	7	10	
十津川村	0	26	30	33	34	44	
下北山村	0	2	1	1	3	1	
上北山村	0	0	0	0	0	0	
川上村	0	2	0	0	0	1	
東吉野村	0	0	0	0	0	0	

# 令和4年度（4～12月）診療状況について（外来）

南奈良総合医療センター・吉野病院・五條病院

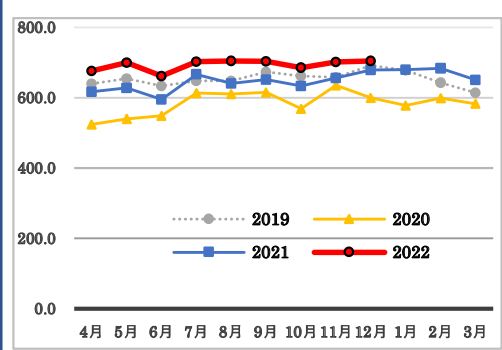
五條病院, 5.0%  
吉野病院, 7.3%



## 外来

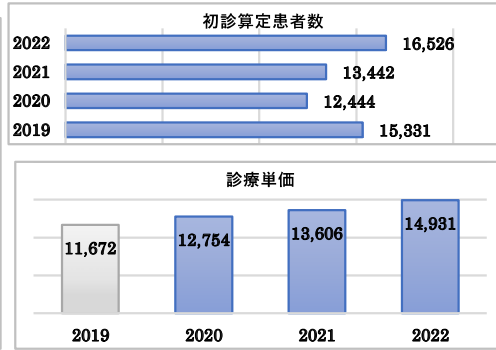
### 外来患者数

- 南奈良HC・五條病院では、コロナ対応で患者が増加している



### 診療単価

- コロナ対応で高い水準が続いており、新規外来患者も増加している

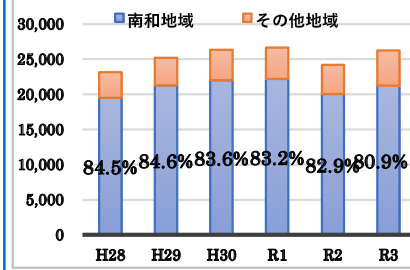


## 参考

南奈良総合医療センター, 87.7%

### 地域別患者数の状況

- 患者のうち85～95%前後は南和地域の住民



### 南和地域市町村別患者数

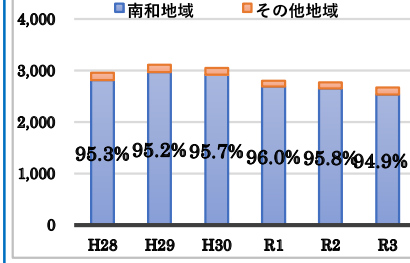
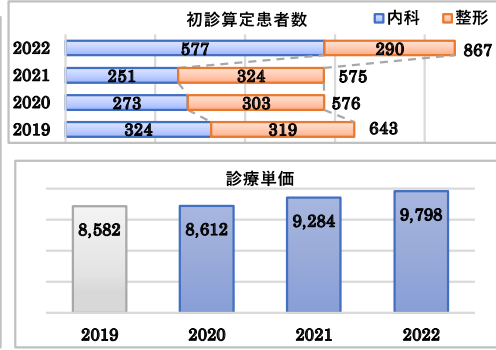
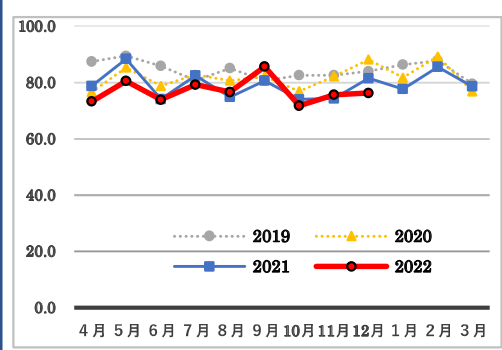
- 南奈良HCでは、約84%（6年平均）
- 吉野病院では、約96%（同上）
- 五條病院では、約94%（5年平均） ※ 実患者数

(外来)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	H28→R3
五條市	7804	8602	8861	8,938	8,151	8878	
吉野町	1928	2346	2410	2,456	2,149	2207	
大淀町	6158	6574	6771	6,796	6,189	6560	
下市町	2177	2092	2109	2,126	1,897	1927	
黒滝村	127	218	240	238	196	205	
天川村	355	377	392	389	354	347	
野迫川村	38	59	60	68	68	79	
十津川村	314	403	442	457	418	397	
下北山村	55	36	76	101	90	76	
上北山村	58	95	114	122	120	116	
川上村	486	415	426	412	333	337	
東吉野村	56	83	103	105	93	104	

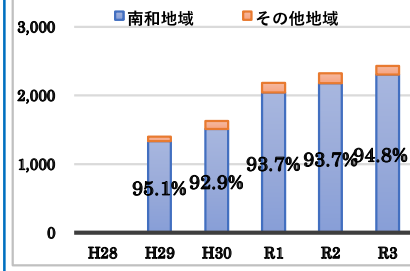
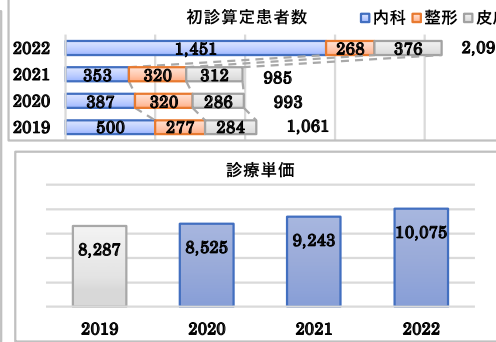
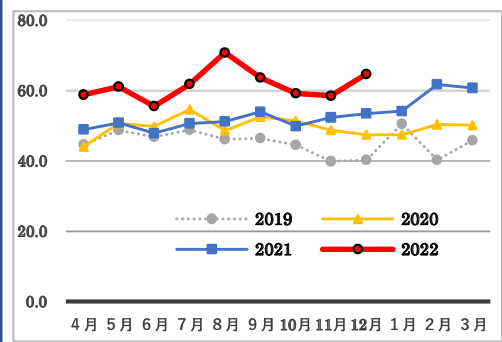
南奈良総合医療センター

吉野病院

五條病院



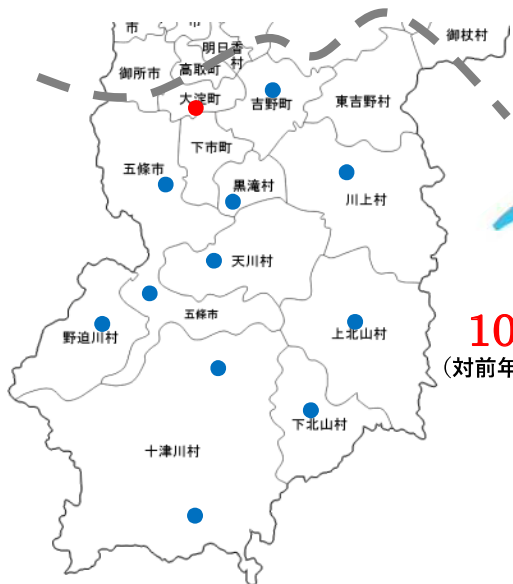
(外来)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	H28→R3
五條市	48	53	28	34	33	25	
吉野町	2015	2103	2039	1,855	1,877	1837	
大淀町	424	468	488	457	438	418	
下市町	89	94	123	126	105	83	
黒滝村	3	3	3	8	11	7	
天川村	14	20	20	20	18	14	
野迫川村	0	0	1	0	0	0	
十津川村	0	2	1	3	4	1	
下北山村	2	5	4	5	3	3	
上北山村	8	10	10	12	8	6	
川上村	194	196	184	152	138	125	
東吉野村	23	17	19	20	21	17	



(入院)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	H28→R3
五條市	0	1269	1444	1,901	2045	2194	
吉野町	0	7	7	16	12	12	
大淀町	0	16	18	42	45	41	
下市町	0	8	9	19	18	14	
黒滝村	0	1	5	6	4	0	
天川村	0	6	5	11	8	8	
野迫川村	0	2	3	14	4	3	
十津川村	0	24	23	38	38	30	
下北山村	0	0	0	0	2	0	
上北山村	0	0	0	0	1	1	
川上村	0	1	0	0	0	1	
東吉野村	0	0	0	0	0	1	

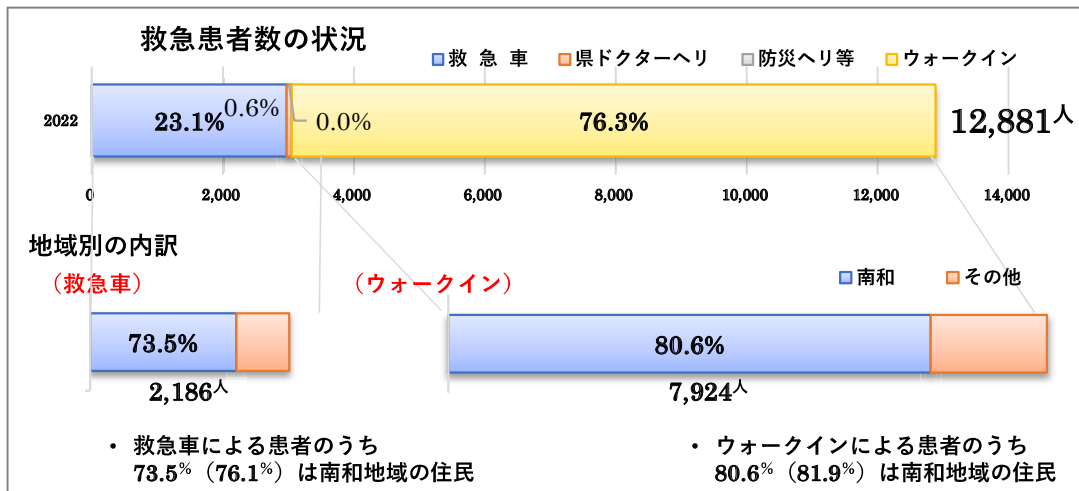
# 令和4年度（4月～12月）救急外来の状況について

南奈良総合医療センター



■ 救急外来受入れ人数 12,881件（対前年度+40.5%）  
 このうち、**10,159人**（全体の78.9%）を南和地域の住民に利用していただいている rf.R③7,278人（全体の79.4%）

**10,159人**  
 （対前年度 +2,881人(+39.6%）  
 が救急外来へ



■ 救急患者について、公立へき地診療所での受診歴があれば、南奈良HCの医師は**患者到着までに診療所の電子カルテ情報を共有・閲覧して、最適な治療につなげている**

● 救急外来の状況（R4.4～12月実績）※患者住所地

救急外来の状況	2021			2022			増減		
	南和	豊稜	計	南和	豊稜	計	南和	豊稜	計
救急車	1,911	626	2,537 (27.7%)	<b>2,186</b>	790	2,976 (23.1%)	275 (+14.4%)	164 (+26.2%)	439 (+17.3%)
県ドクターヘリ	66	21	87 (0.9%)	<b>49</b>	23	72 (0.6%)	▲17 (▲25.8%)	2 (+9.5%)	▲15 (▲17.2%)
防災ヘリ等	2	6	8 (0.1%)	<b>0</b>	4	4 (0.0%)	▲2 (-)	▲2 (▲33.3%)	▲4 (▲50.0%)
ウォークイン	5,299	1,237	6,536 (71.3%)	<b>7,924</b>	1,905	9,829 (76.3%)	2,625 (+49.5%)	365 (+54.0%)	3,293 (+50.4%)
合計	7,278	1,890	9,168 (100.0%)	<b>10,159</b>	2,722	<b>12,881</b> (100.0%)	2,881 (+39.6%)	502 (+44.0%)	3,713 (+40.5%)
1日平均	26.5	6.9	33.2	<b>35.6</b>	9.9	46.8	10.4	3.0	13.4

括弧内は、前年度同期間の比率

● 県ドクターヘリ（49件）の内訳（患者住所地）

市町村名	件数	市町村名	件数
五條市	17	野迫川村	1
吉野町	8	十津川村	10
大淀町	3	下北山村	2
下市町	0	上北山村	2
黒滝村	0	川上村	1
天川村	4	東吉野村	1

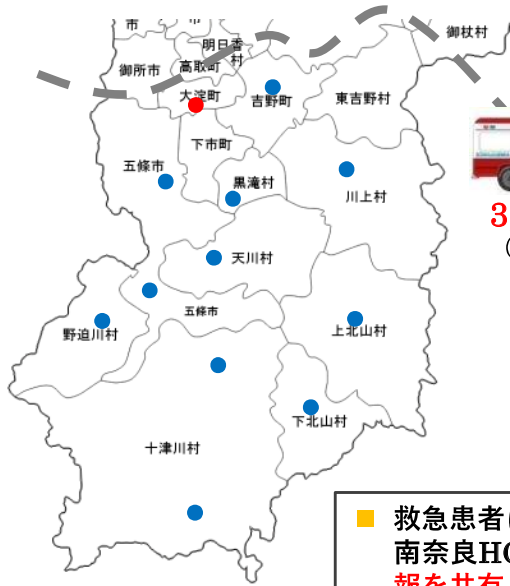


【参考】県ドクターヘリ出動・搬送状況（R4.4～12月実績）

出動件数	累計			搬送件数	累計		
	2021	2022	増減		2021	2022	増減
南和保健医療圏	134	138	4	南奈良総合医療センター	87	72	-15
奈良保健医療圏	9	22	13	対出動件数（キャンセル除く）	29.2%	23.2%	-6.0pt
西和保健医療圏	42	36	-6	南和地域出動受入件数	77	66	-11
中和保健医療圏	41	49	8	奈良県立医科大学附属病院	116	122	6
東和保健医療圏	56	56	0	奈良県総合医療センター	18	42	24
県外	16	10	-6	その他	77	75	-2
小計	298	311	13	合計	298	311	13
離陸後キャンセル	58	41	-17				
合計	356	352	-4				

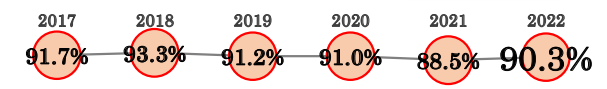
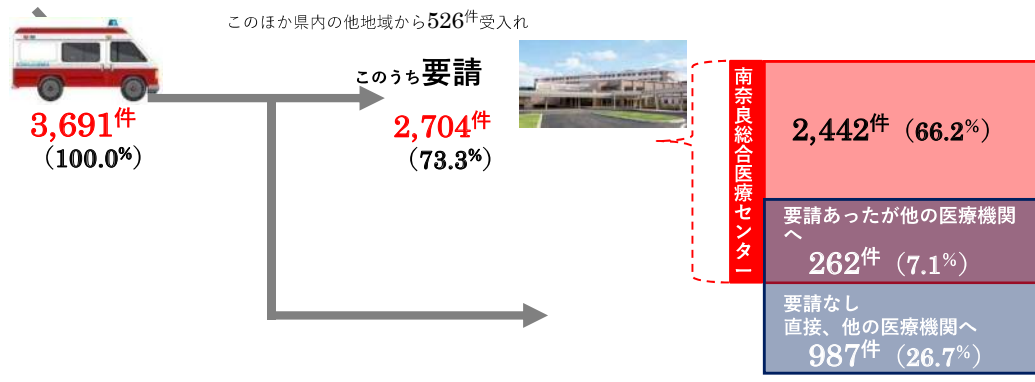
# 令和4年度（4月～12月） 救急搬送状況について

南奈良総合医療センター



■ 南和地域管内救急搬送件数 **3,691件**  
 このうち南奈良HCに、**2,704件**の要請があり、**2,442件**（応需率**90.3%**）を受け入れ

※ 4～8月（89.1%）から改善  
 応需率の推移



応需率 **90.3%** ≒ 2,442 / 2,704  
 ※ 応需できなかった主な理由  
 3次救急対応で専門外、救急センター混雑・緊急手術、ベッド満床

その他

奈良医大HP	367件 (9.9%)
橋本市民HP	109件 (3.0%)
その他	773件 (20.9%)

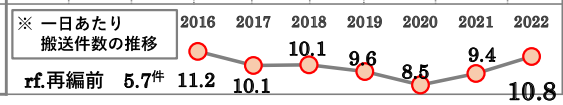
■ 救急患者について、公立へき地診療所での受診歴があれば、南奈良HCの医師は**患者到着までに診療所の電子カルテ情報を共有・閲覧して、最適な治療につなげている**（再掲）

● 「その他」の内訳

医療機関名	件数	医療機関名	件数
奈良県ドクヘリ	114	秋津鴻池病院	8
済生会御所病院	67	五條病院	8
天理よろづ相談所病院	56	辻村病院	6
中井記念病院	45	奈良県総合医療センター	6
済生会中和病院	40	南和病院	5
大和糧原病院	36	南和歌山医療センター	5
香芝生喜病院	35	郡山青藍病院	3
平成記念病院	31	やまと精神医療センター	3
高井病院	30	恵王病院	3
大和高田市立病院	30	平尾病院	2
土庫病院	29	ハートランドしぎさん	2
十津川村小原診療所	27	山本病院（橋本市）	2
吉本整形外科外科病院	24	中辻医院	2
奈良県西和医療センター	23	香芝旭ヶ丘病院	2
新宮市立医療センター	22	和歌山県ドクヘリ	2
紀和病院	21	近畿大学奈良病院	2
国保中央病院	19	公立那賀病院	2
吉野病院	12	市立奈良病院	29
紀南病院	11	外28医療機関各1件	
宇陀市立病院	9		
合計			<b>773</b>

※ 「奈良県ドクヘリ」「和歌山県ドクヘリ」は、ランデブーポイントまでの搬送

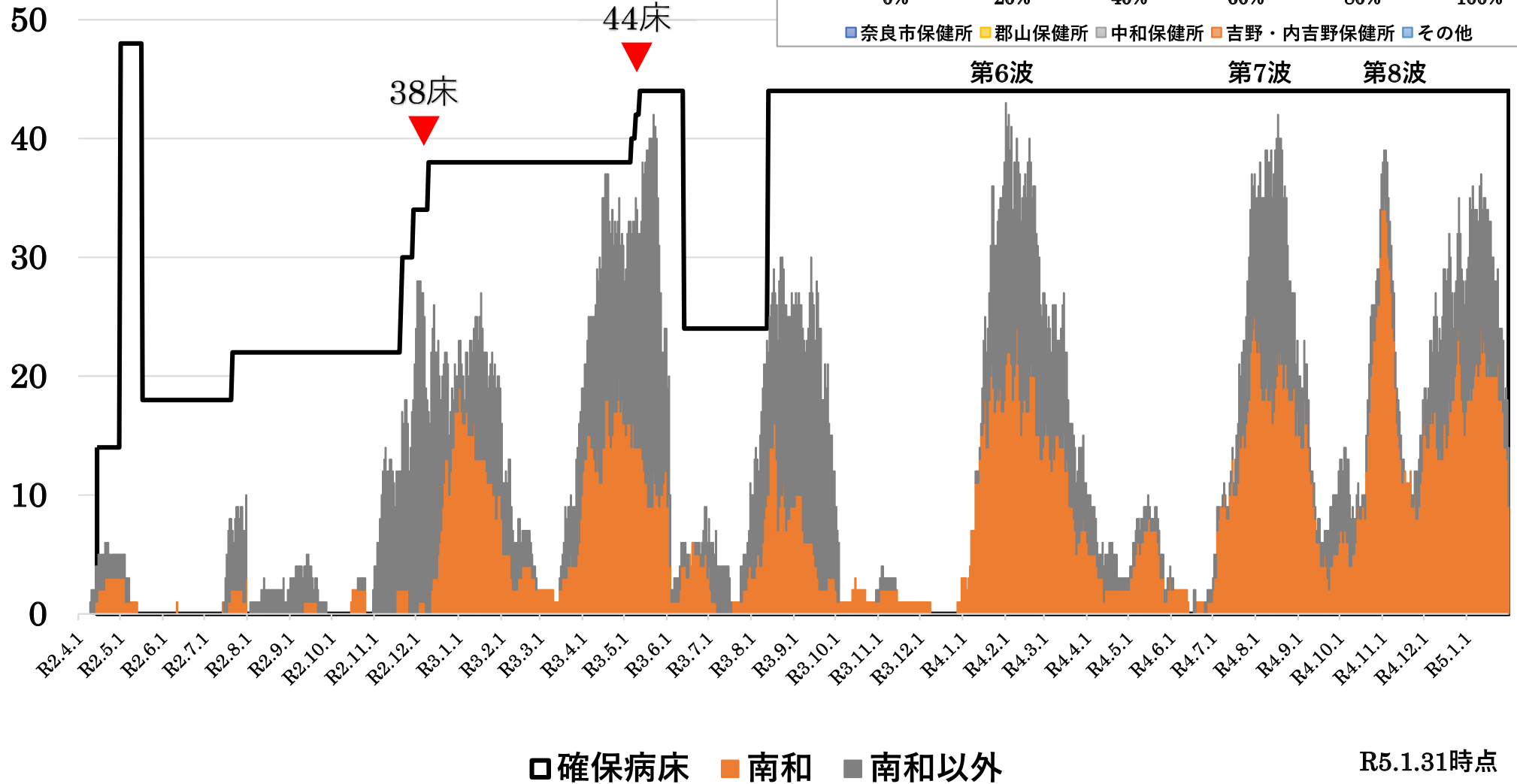
救急搬送状況	県広域消防組合 総搬送数	累 計																			
		受 入 れ 医 療 機 関																			
		南奈良総合医療センター									奈良医大						橋本市民			その他	
		要請数(A)			受入数(B)			応需率(B/A)			救命・ER・外来										
2021	2022	増減	2021	2022	増減	2021	2022	増減	2021	2022	増減	2021	2022	増減	2021	2022	増減	2021	2022	増減	
中吉野	大淀署	718	837	119	475	580	105	445	520	75	93.7%	89.7%	95	124	29	2	4	2	176	189	13
	下市署	265	281	16	191	222	31	182	200	18	95.3%	90.1%	21	22	1	0	1	1	62	58	-4
	黒滝分署	51	58	7	39	46	7	35	41	6	89.7%	89.1%	3	4	1	0	0	0	13	13	0
	天川分署	88	101	13	59	73	14	50	65	15	84.7%	89.0%	8	9	1	0	0	0	30	27	-3
五條	五條署	1,279	1,476	197	925	1,135	210	862	1,009	147	93.2%	88.9%	111	133	22	83	91	9	223	243	20
	大塔分署	62	66	4	46	49	3	41	44	3	89.1%	89.8%	3	4	1	3	1	-2	15	17	2
	十津川分署	146	136	-10	63	65	2	59	60	1	93.7%	92.3%	7	2	-5	2	0	-2	78	74	-4
	西吉野出張所	113	151	38	92	122	30	90	108	18	97.8%	88.5%	5	20	15	4	5	1	14	18	4
吉野	吉野署	435	497	62	304	364	60	299	349	50	98.4%	95.9%	26	44	18	0	0	0	110	104	-6
	北山分署	56	64	8	20	35	15	18	34	16	90.0%	97.1%	4	1	-3	0	0	0	34	29	-5
野迫川	野迫川署	25	24	-1	11	13	2	10	12	2	90.9%	92.3%	2	4	2	5	7	2	8	1	-7
	野迫川分署																				
<b>南和地域 計</b>		<b>3,238</b>	<b>3,691</b>	<b>453</b>	<b>2,225</b>	<b>2,704</b>	<b>479</b>	<b>2,091</b>	<b>2,442</b>	<b>351</b>	<b>94.0%</b>	<b>90.3%</b>	<b>285</b>	<b>367</b>	<b>82</b>	<b>99</b>	<b>109</b>	<b>10</b>	<b>763</b>	<b>773</b>	<b>10</b>
中和	御所署	1,373	1,530	157	185	235	50	164	184	20	88.6%	78.3%	208	305	97	2	2	0	999	1,039	40
	高市署	737	851	114	53	70	17	49	54	5	92.5%	77.1%	117	196	79	0	0	0	571	601	30
宇陀	宇陀署	1,445	1,653	208	24	54	30	23	42	19	95.8%	77.8%	148	228	80	0	0	0	1,274	1,383	109
	その他	27,313	31,396	4,083	-	-	-	195	246	51	-	-	3,002	3,664	662	0	2	2	24,116	27,484	3,368
県消防 合計		34,106	39,121	5,015	-	-	-	2,522	2,968	446	-	-	3,760	4,760	1,000	101	113	12	27,723	31,280	3,557
(県内応需率※1)							(86.9)	(85.4)													
他消防 (県外等)							15	8	-7												
総 計							2,537	2,976	439												



※ 4～8月（10.7）から  
0.1件受入増加

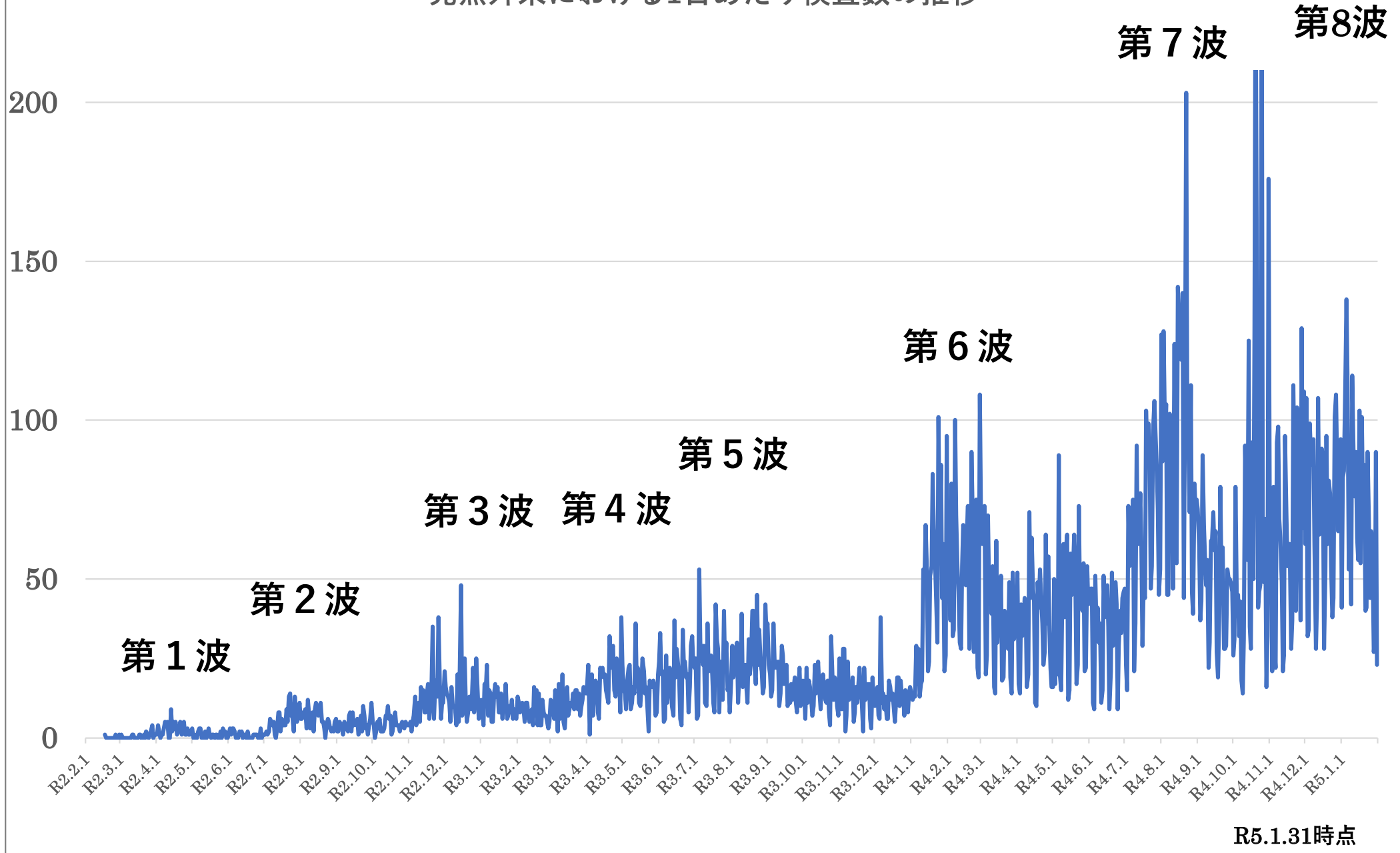
# 南奈良総合医療センターにおける新型コロナウイルス患者の入院受入状況（地域別）

## 病床確保及び確定入院患者数の推移





発熱外来における1日あたり検査数の推移



## 令和4年度 南和広域医療企業団 病院事業会計決算見込について

単位:百万円

	令和4年度 当初予算	令和4年度 決算見込	増 減	増 減 理 由
1 病院事業収益(特別利益除く)	10,741	11,423	682	
(1) 医業収益	9,033	9,723	690	
ア 入院収益	5,398	5,622	224	コロナ患者増加による診療単価の増加
イ 外来収益	2,427	2,894	467	発熱外来患者増加、難病患者、化学療法患者に伴う診療単価の増加
ウ その他医業収益	320	333	13	
エ 国・県補助金	534	520	△ 14	コロナワクチン接種料収入の減少
オ 他会計負担金	354	354	0	
(2) 医業外収益	1,582	1,580	△ 2	
(3) 看護師養成事業収益	126	120	△ 6	
2 病院事業費用(特別損失・予備費除く)	10,612	11,075	463	
(1) 医業費用	10,397	10,865	468	
ア 給与費	5,471	5,503	32	
イ 材料費	1,680	2,071	391	コロナ患者、難病患者、化学療法患者に伴う注射薬品等の増加
ウ 経費	2,279	2,337	58	物価高騰による光熱費、消耗品費(个人防护服等)の増加
エ 減価償却費	943	940	△ 3	
オ その他医業費用	24	14	△ 10	
(2) 医業外費用	70	69	△ 1	
(3) 看護師養成事業費用	145	141	△ 4	
3 経常利益(損失)	129	348	219	
4 特別利益	2	0	△ 2	
5 特別損失	6	59	53	過年度分補助金返還による増加
6 予備費	3	0	△ 3	
7 純利益(純損失)	122	289	167	



南奈良総合医療センターの特徴

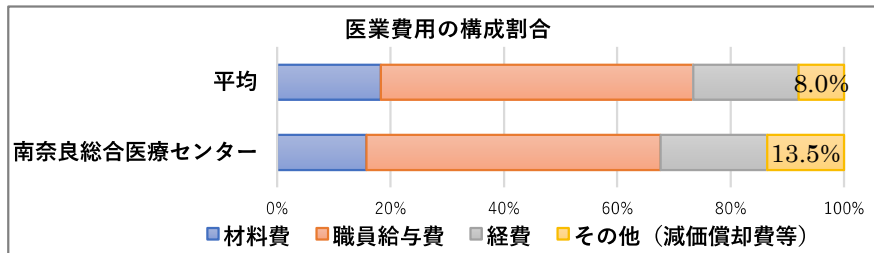
※ 令和元年度から変更なし

- 病床数が比較的少ないにもかかわらず、効率的な病床の運用により「**医業収益**」の総額は高い水準にある（**24病院中第5位**）  
 ∴ 病床稼働率は類似の**24病院中第2位** ※ 300床あるいは7：1看護基準の病院と同程度の水準にある  
 ただし、減価償却費の占める割合が高くなっているため、**医業収支比率**は低くなっている（24病院中17位）
- その一方で、「**経常収支**」は、黒字を確保している ※ **本業で赤字を出さないという所期の目標を達成**  
 ∴ 減価償却費のほとんどについては、整備当時の補助金収入等を医業外収益として毎年度収益化しており、**経常収支に影響を及ぼさないようになっている**  
 （「長期前受金」の戻入処理）

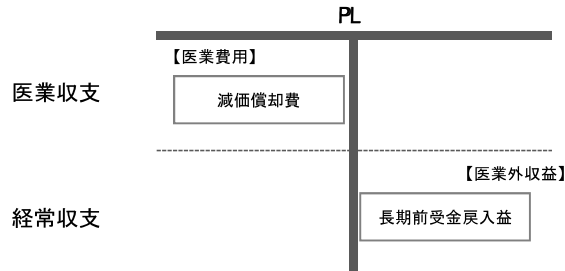
R2（コロナ感染拡大）のポイント

- 新型コロナウイルスの影響で「**医業収支比率**」は悪化したものの、「**経常収支比率**」は、**ほぼ元年度並みを維持している**（R②100.8% R①100.1%）  
 ※ 医業収支比率（R②78.5% R①84.9%）
- なお、類似病院との比較では、多額の補助金収入で経常収支が大幅に改善した病院があったため、「**経常収支比率**」の順位を落としている  
 （②4病院中第12位 R①第7位）

参考；減価償却費の占める割合が相対的に高いため、医業収支を圧迫する



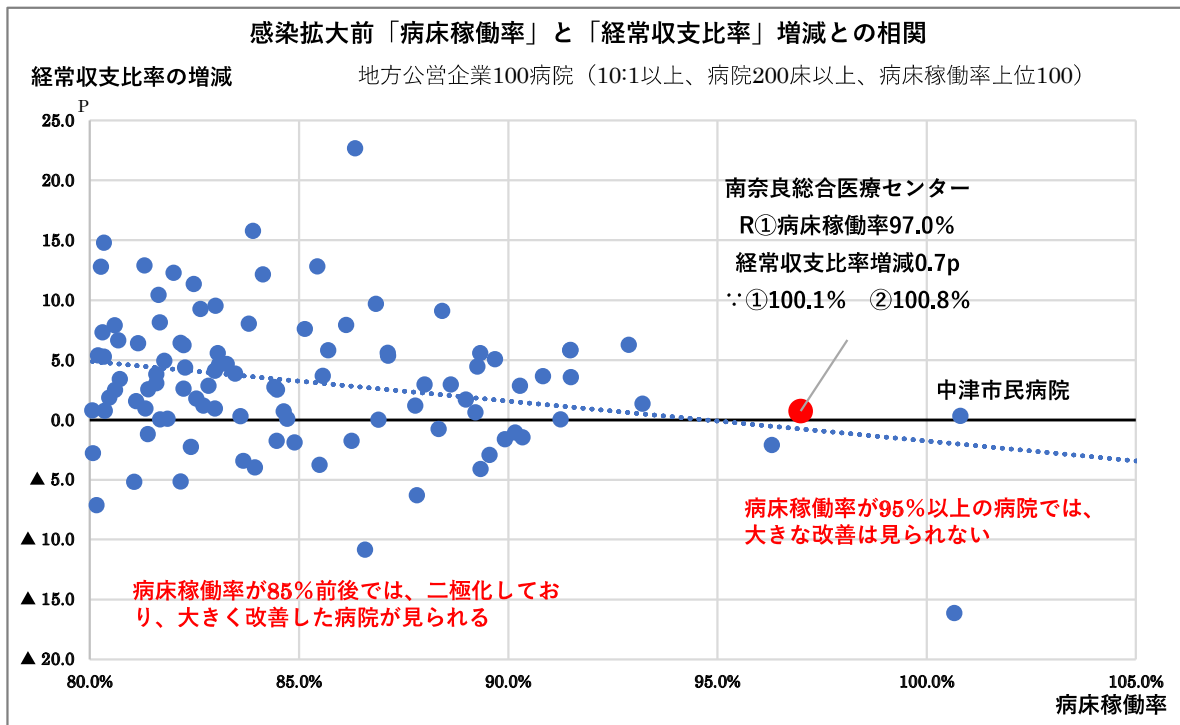
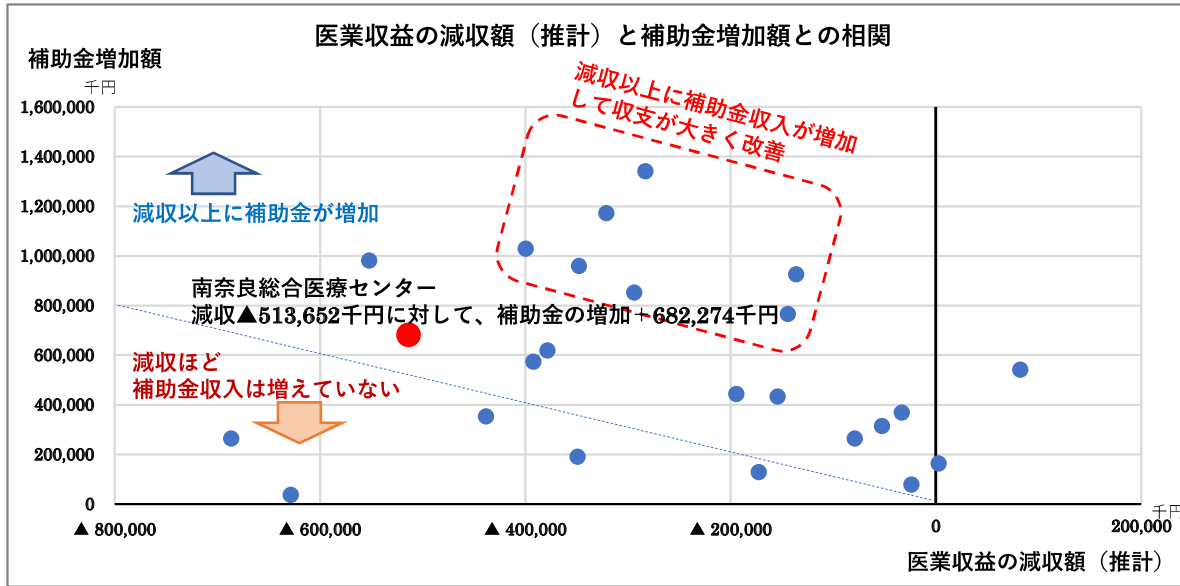
参考；「減価償却費（医業費用）」の大部分は「長期前受金戻入益（医業外収益）」で減殺し、経常収支には影響しない仕組みとなっている



病床数順	病院名	都道府県	事業開始年度	一般	療養	結核	精神	感染症	総病床数	看護の基準
1	新宮市立医療センター	和歌山県	1947	300	-	-	-	4	304	10：1
1	公立那賀病院	和歌山県	1950	300	-	-	-	4	304	7：1
1	厚生病院	鳥取県	1963	300	-	-	-	4	304	7：1
4	橋本市民病院	和歌山県	1963	300	-	-	-	-	300	10：1
5	日南病院	宮崎県	1948	277	-	-	-	4	281	7：1
6	十日町病院	新潟県	1949	275	-	-	-	-	275	7：1
7	荒尾市民病院	熊本県	1949	270	-	-	-	4	274	7：1
8	金石病院	岩手県	1950	272	-	-	-	-	272	10：1
9	公立刈田総合病院	宮城県	1949	254	-	4	-	4	262	10：1
10	出水総合医療センター	鹿児島県	1925	257	-	-	-	4	261	10：1
11	国保黒石病院	青森県	1944	257	-	-	-	-	257	7：1
12	市立八幡浜総合病院	愛媛県	1928	254	-	-	-	2	256	10：1
13	島原病院	長崎県	1966	250	-	-	-	4	254	7：1
14	二戸病院	岩手県	1950	248	-	5	-	-	253	10：1
15	中津市民病院	大分県	2000	250	-	-	-	-	250	7：1
16	佐原病院	千葉県	1955	237	-	4	-	-	241	7：1
17	<b>南奈良総合医療センター</b>	<b>奈良県</b>	<b>2016</b>	<b>228</b>	-	-	-	<b>4</b>	<b>232</b>	<b>10：1</b>
18	循環器病センター	千葉県	1955	220	-	-	-	-	220	7：1
18	三好病院	徳島県	1956	206	-	8	-	6	220	7：1
20	山陽小野田市民病院	山口県	1950	215	-	-	-	-	215	10：1
21	高島市民病院	滋賀県	1981	206	-	-	-	4	210	10：1
21	光市立光総合病院	山口県	2019	210	-	-	-	-	210	7：1
23	伊万里有田共立病院	佐賀県	2012	202	-	-	-	4	206	7：1
24	名張市立病院	三重県	1994	200	-	-	-	-	200	7：1

※ 「不採算地区」（当該病院から最寄りの病院までの移動距離が15km以上、または当該病院の半径5km以内の人口が10万人未満）に所在する、200床以上300床以下の許可病床（一般病床）を有する公立病院であって、次のi）及びii）を満たす病院

- i）都道府県の医療計画において、二次救急医療機関又は三次救急医療機関として位置づけられていること、ii）へき地医療拠点病院又は災害拠点病院の指定を受けていること



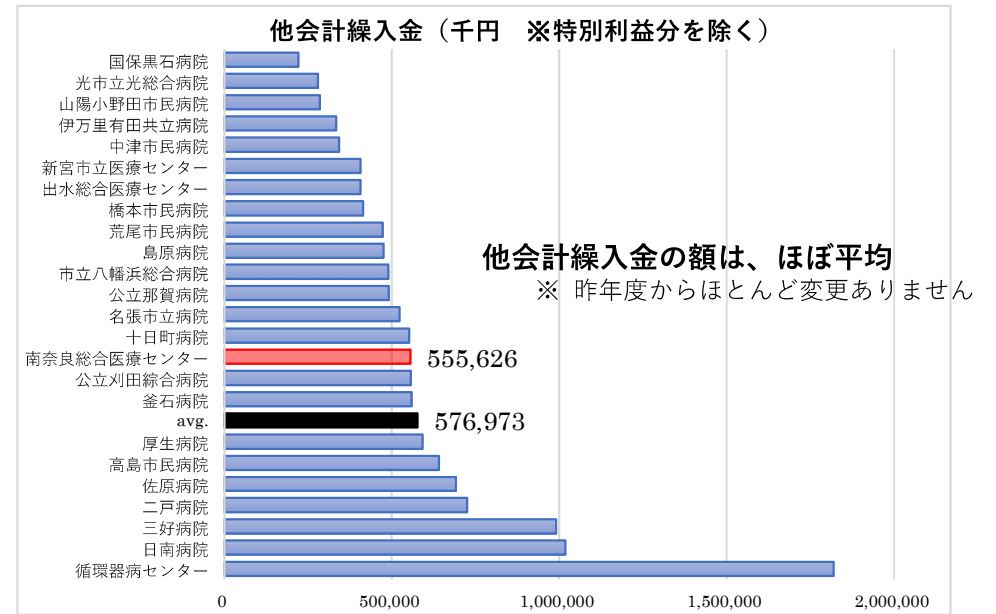
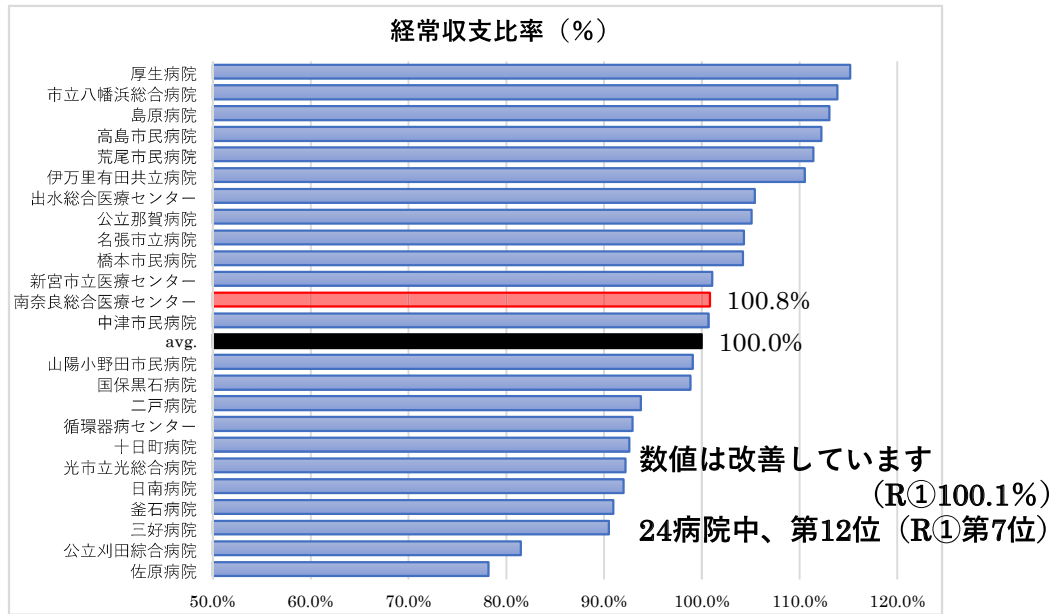
## 病床確保料は、ほぼ減収相応である

- 南奈良HCの医業収益の減収額は、約▲5.1億円（推計）  
 ※ R②医業収益（医業収支比率78.5%）について、R①医業収支比率（84.9%）による差を減収額として推計
- 病床確保料等の補助金増加額は、約6.8億円  
 ※ R②682,274千円 - R①0千円
- 医業収益の減収以上に、補助金収入が大きく増加した病院が見られる（左上グラフ）  
 ※ 病床確保料で収支が大きく改善するという状態になる
- 南奈良HCのように感染拡大前の病床稼働率が95%超の病院では、経常収支について大きな改善は見られない（左下グラフ）  
 ✓ しかし、85%前後の病院では、大きく改善した病院が見られる

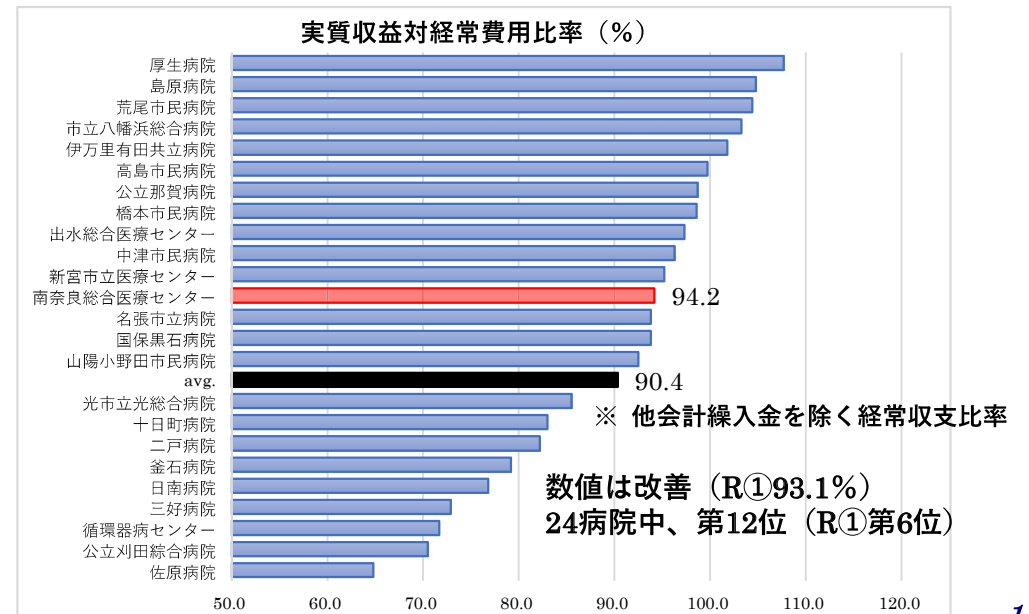
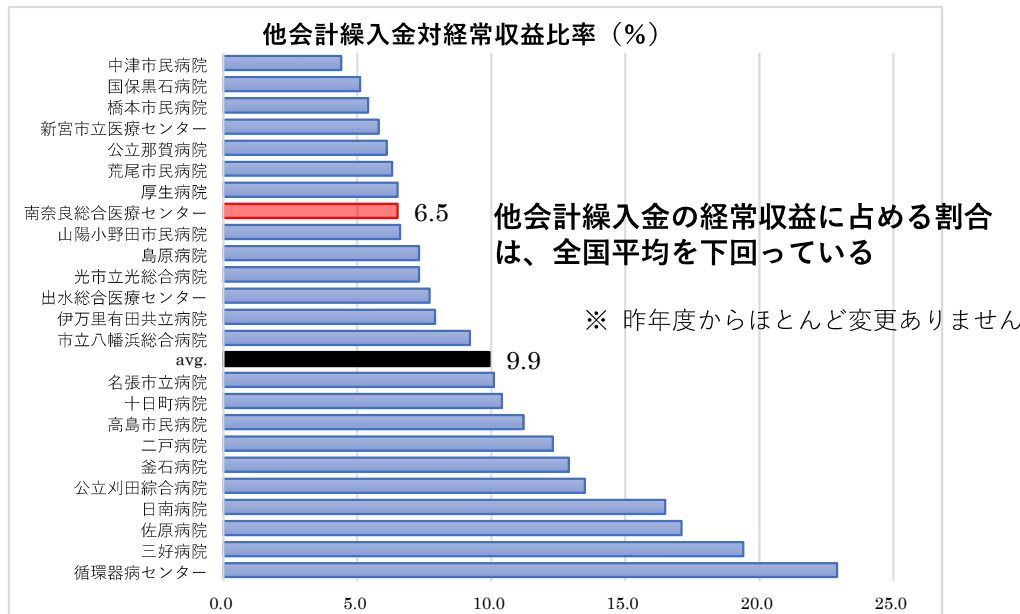
（参考）コロナ専用病床の確保状況

順位	病院名	都道府県	総病床数	R1 病床稼働率	コロナ病床 R4.11.16	割合
1	公立那賀病院	和歌山県	304	82.2%	65	21.4%
2	南奈良総合医療センター	奈良県	232	97.0%	44	19.0%
3	三好病院	徳島県	220	64.1%	39	17.7%
4	橋本市民病院	和歌山県	300	81.7%	51	17.0%
5	伊万里有田共立病院	佐賀県	206	76.2%	32	15.5%
6	厚生病院	鳥取県	304	80.3%	47	15.5%
7	十日町病院	新潟県	275	73.5%	42	15.3%
8	荒尾市民病院	熊本県	274	82.5%	39	14.2%
9	名張市立病院	三重県	200	77.0%	24	12.0%
10	新宮市立医療センター	和歌山県	304	82.2%	32	10.5%
11	中津市民病院	大分県	250	100.8%	26	10.4%
12	avg.		253	73.8%	25	9.9%
13	島原病院	長崎県	254	85.4%	24	9.4%
14	市立八幡浜総合病院	愛媛県	256	58.6%	20	7.8%
15	循環器病センター	千葉県	220	58.6%	17	7.7%
16	出水総合医療センター	鹿児島県	261	60.2%	20	7.7%
17	高島市民病院	滋賀県	210	79.0%	15	7.1%
18	山陽小野田市民病院	山口県	215	80.5%	15	7.0%
19	佐原病院	千葉県	241	49.0%	12	5.0%
20	日南病院	宮崎県	281	80.1%	10	3.6%
21	二戸病院	岩手県	253	63.6%	8	3.2%
22	光市立光総合病院	山口県	210	62.4%	6	2.9%
23	公立刈田総合病院	宮城県	262	59.1%	4	1.5%
24	釜石病院	岩手県	272	65.1%	4	1.5%
25	国保黒石病院	青森県	257	71.2%	2	0.8%

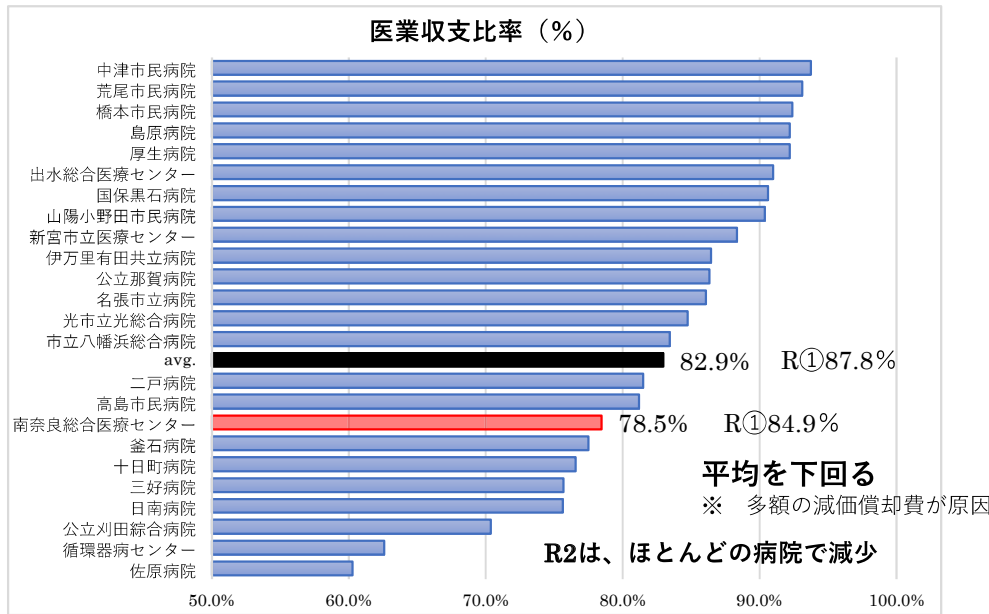
- 経常収支比率は、100.8%で黒字を維持
- 収支が改善した病院の増加により、経常収支比率の相対比較で順位を落としている



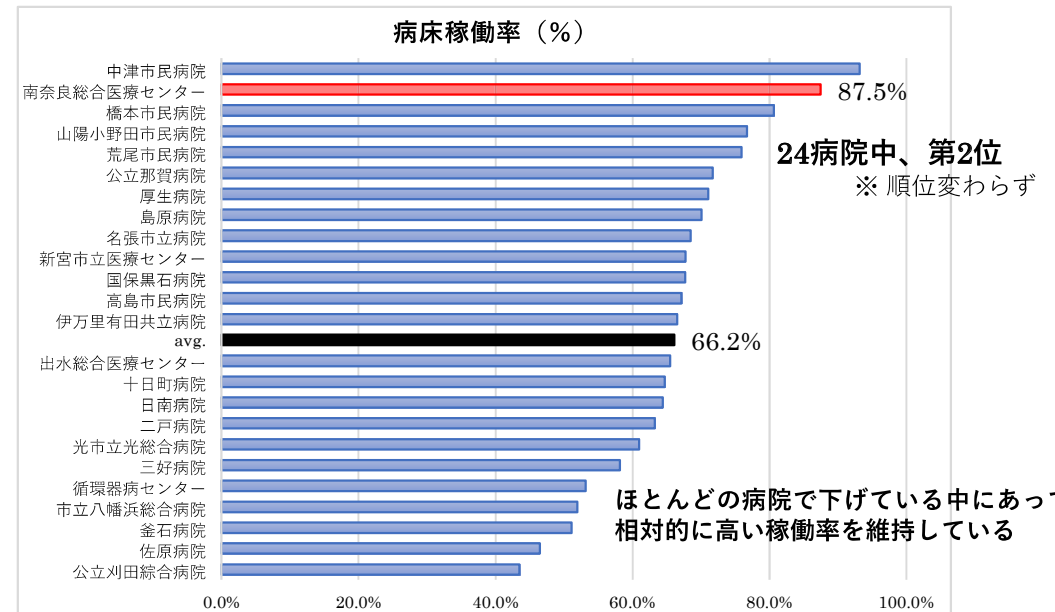
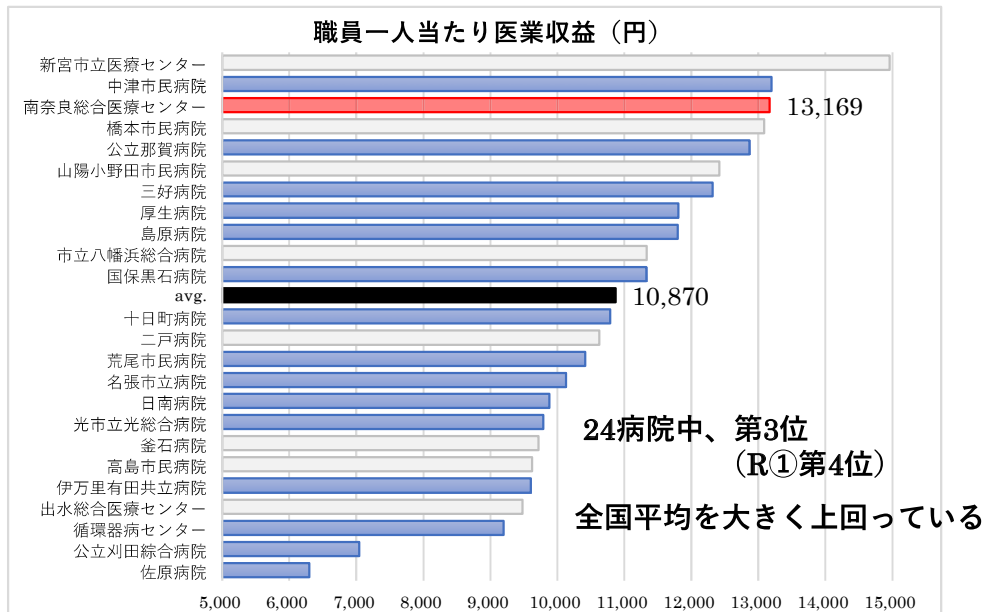
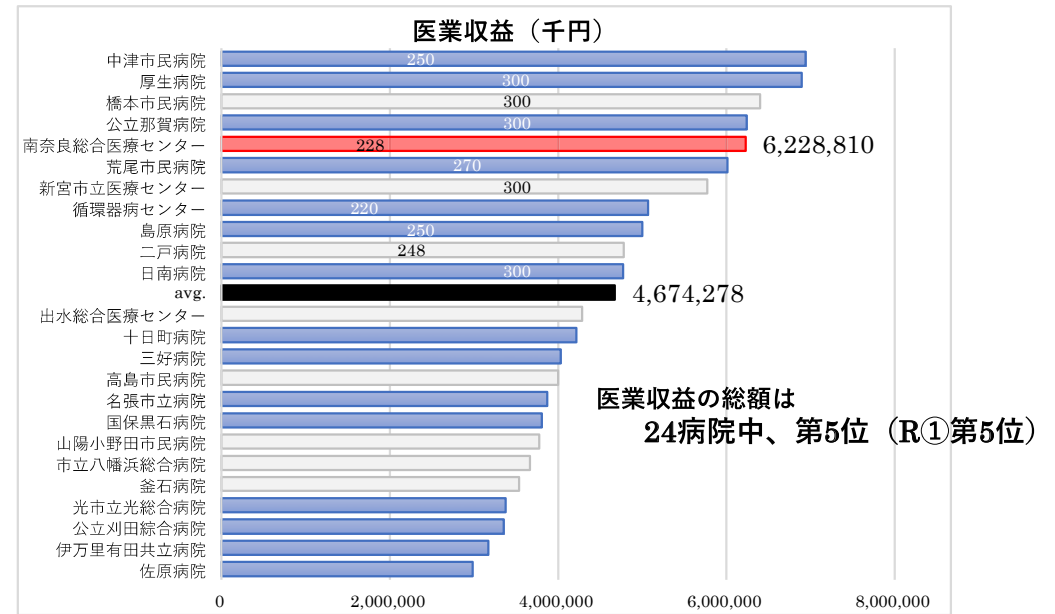
赤色；南奈良総合医療センター 黒色；平均、以下同じ

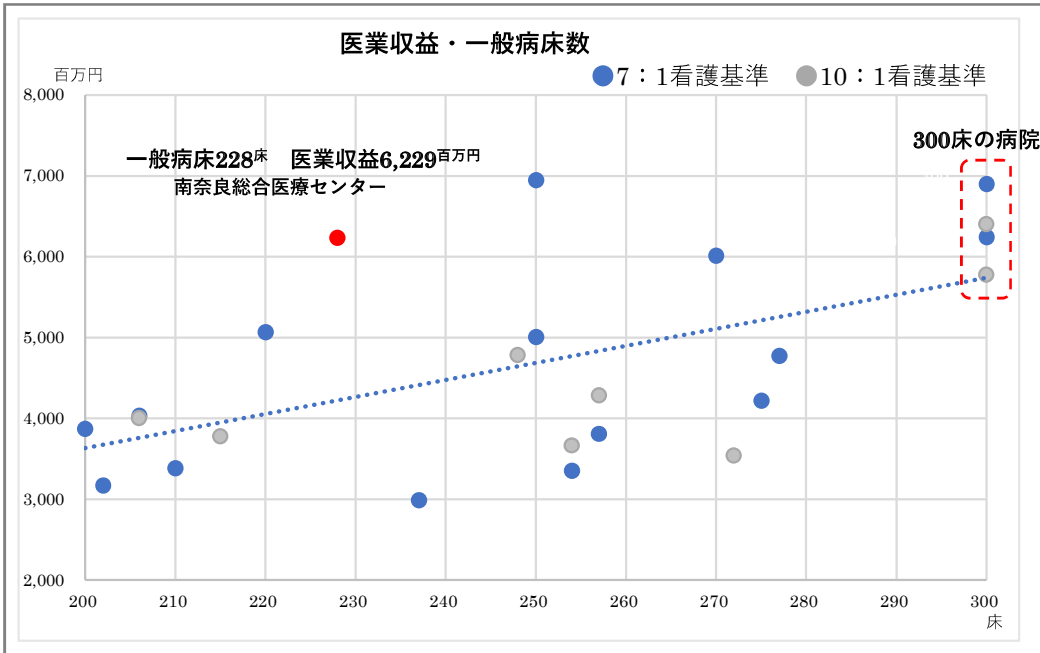


- 医業収支比率は、コロナ対応で悪化したものの、医業収益の総額では、病床運用の努力により高い水準を維持している
- 職員一人あたりの医業収益では、昨年度から順位を上げ、24病院中第3位となった



赤色；南奈良総合医療センター 黒色；平均、以下同じ





### 「医業収益」と「一般病床数」の相関について

南奈良HCは、一般病床228床で、6,229百万円の医業収益を確保している

病床数が多ければ、医業収益の総額も大きくなるのが一般的であるが、

- 平均的な水準よりも上にある
- 医業収益の総額について、300床規模の病院と同程度の金額を、同じ病床規模では7:1看護基準の病院よりも大きい金額を確保している

※ 昨年度から変更はありません

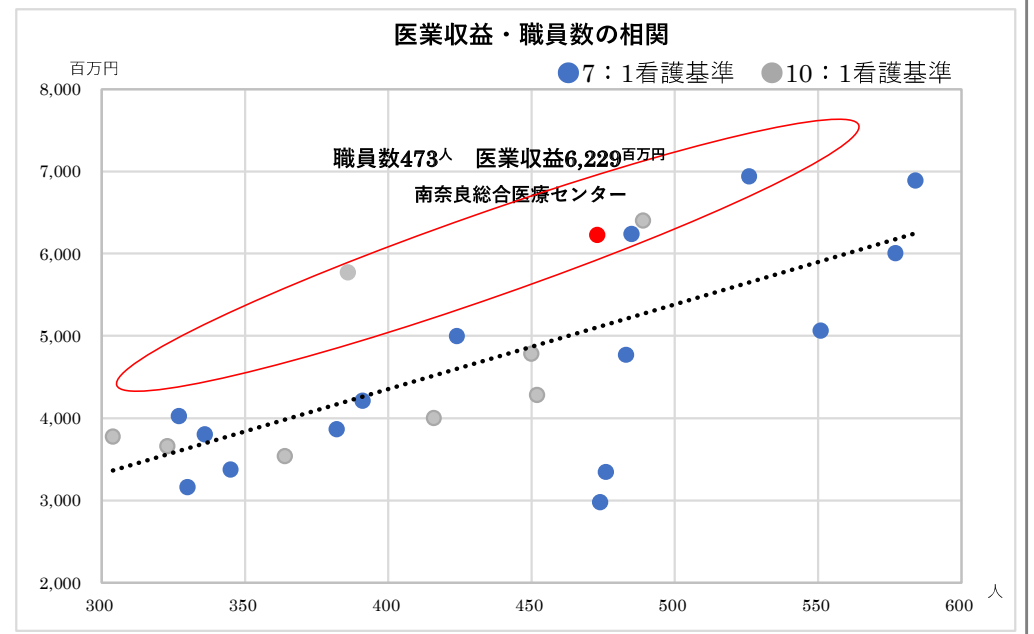
### 「医業収益」と「職員数」の相関について

南奈良HCは、職員数473人で、6,229百万円の医業収益を確保している

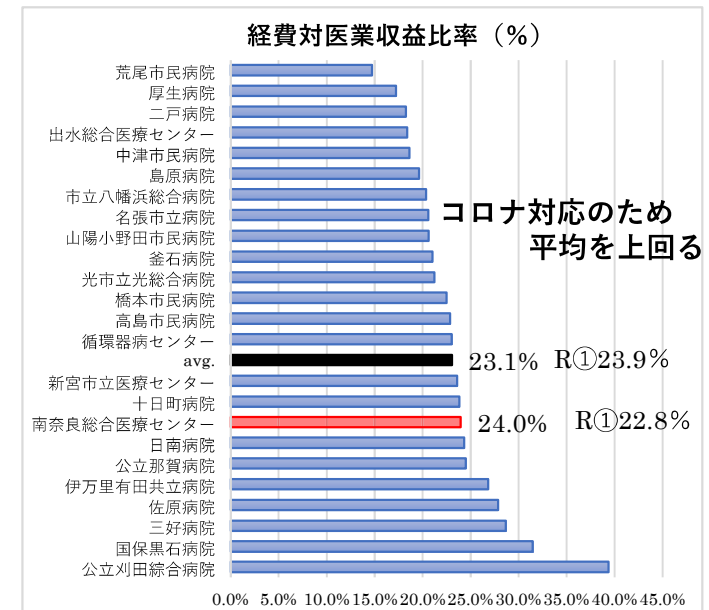
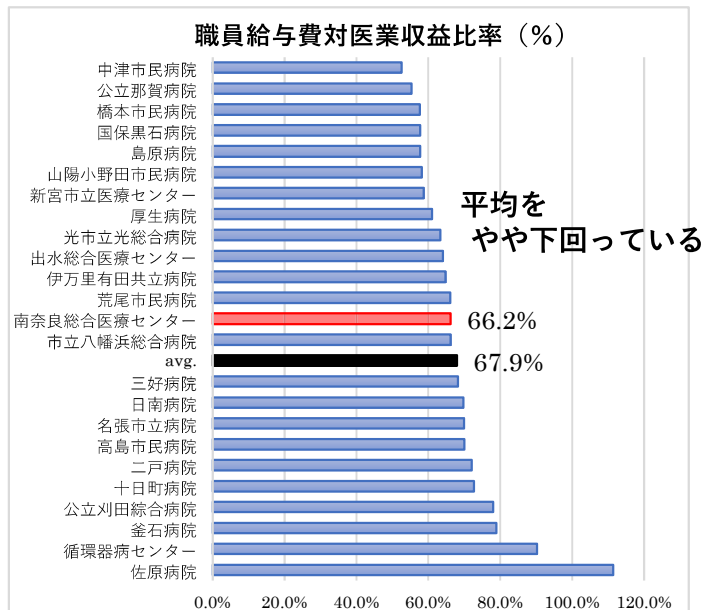
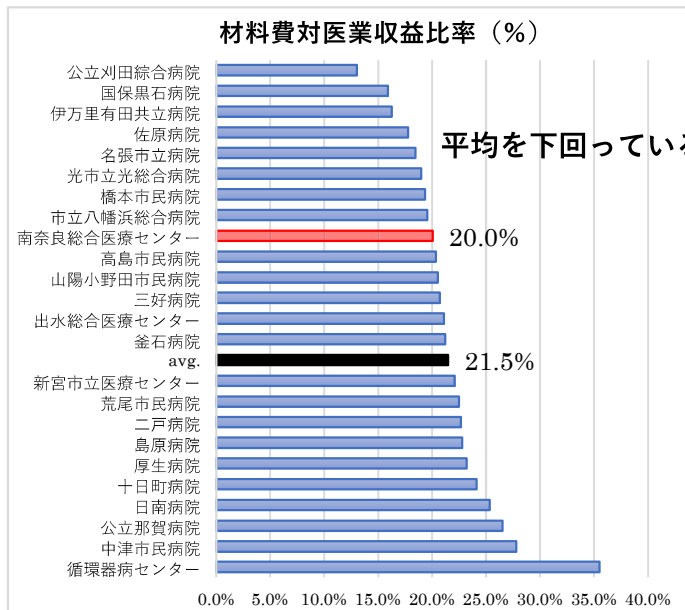
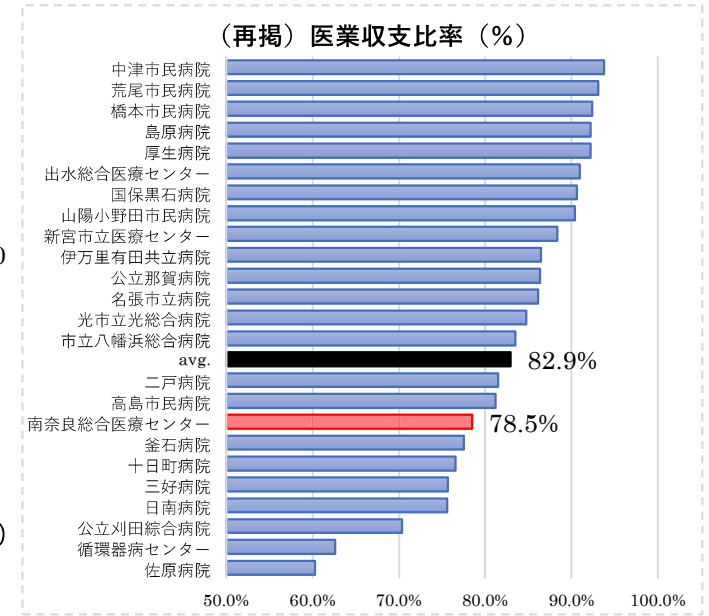
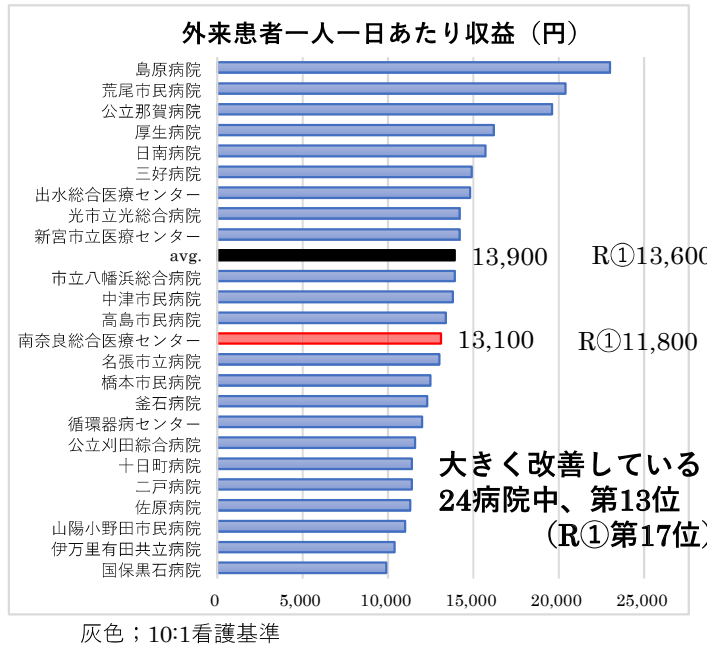
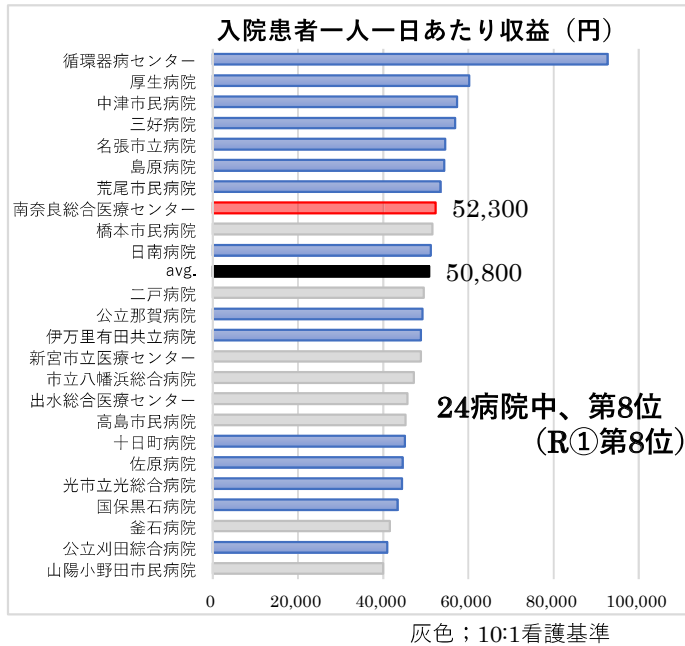
職員数が多ければ、医業収益の総額も大きくなるのが一般的であるが、

- 平均的な水準よりも上にある
- 職員一人あたりの医業収益は高く、職員数との相関では、比較的効率よい経営を行っているといえる

※ R2から会計年度任用職員の数職員数に含まれているが、大きな変更はありません



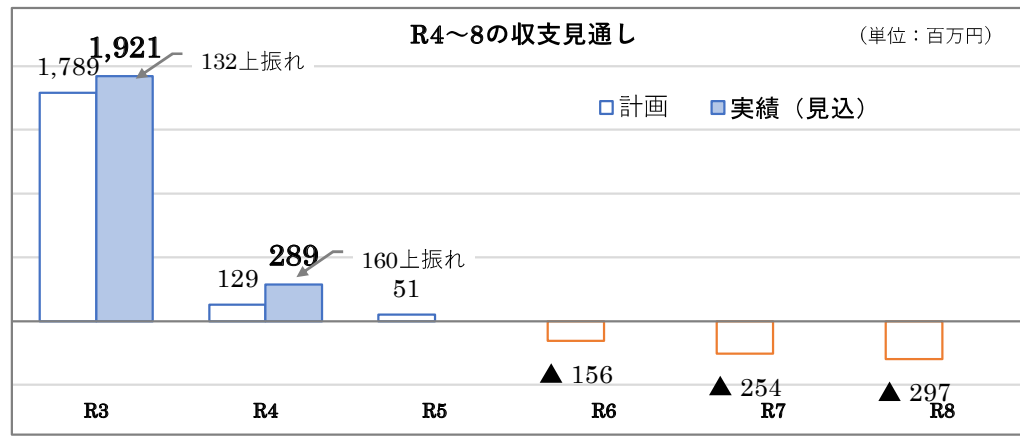
- 外来単価はコロナ対応で大きく改善し、入院単価は合理的な病床運用により高い水準にある
- コロナ対応で経費が増加したものの、材料費・職員給与費については、平均を下回っている（※ 医業収支比率の順位は変わらず）



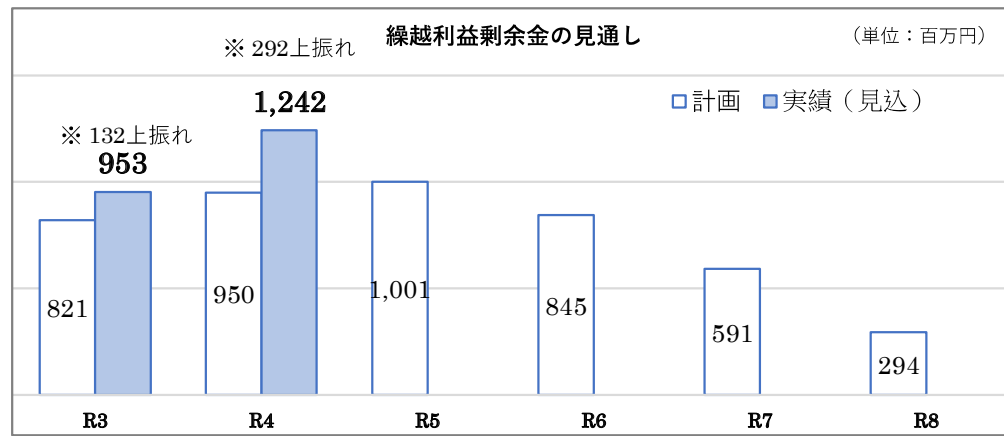


## 収支見通し（R4～R8）

- 4年度までの収益の額は、計画を上回る見込み
- 設備投資の減価償却が始まる令和5年度から収支が厳しくなり、令和6年度から単年度経常赤字となる見込み



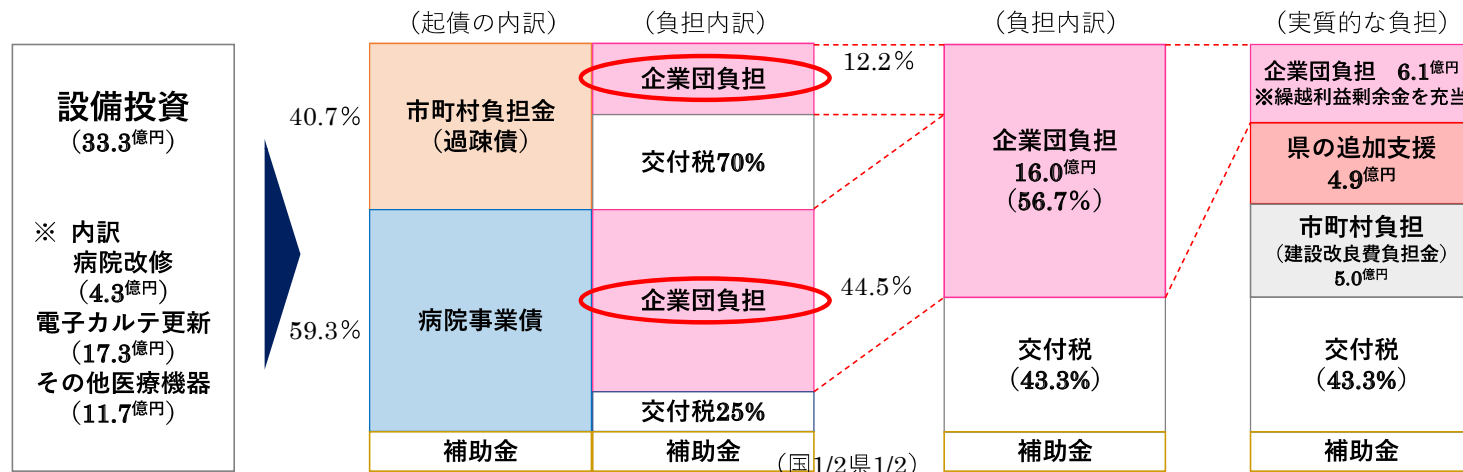
- 6年度から単年度赤字となり、繰越利益剰余金の額は減少していくが、中期計画期間が終了する8年度末においても累積欠損は発生しない見込み
- 増益により4年度末繰越利益剰余金は、約12.6億円まで増加する見込み



## 設備投資財源の賄い方

- 交付税の有利な「過疎対策事業債による支援」、「県からの追加支援」により、企業団の実質的な負担は大幅に軽減され、「繰越利益剰余金」で賄える見込となっている ※ 構成団体にさらなる負担は発生しない見込み

rf. 【県の追加支援】 電子カルテの更新にかかる起債の償還時に、地方交付税算定額を控除した額の50%を支援（総額約5億円）



第3期中期計画期間（R9～13）の設備投資財源の賄い方も同じ

今後10年間の設備投資について、一般財源による追加の負担は、構成市町村に発生しない見込み